

会 議 録

会議の名称	第1回杵築市地域自立支援協議会
開催日時	令和6年7月5日（金） 午後2時から午後4時00分
開催場所	杵築市社会福祉協議会 会議室
出席者	委員9名（釘宮委員、江藤委員、川野委員、川崎委員、匹田委員、阿部委員、矢守委員、藤波委員、小野落委員） 福祉事務所5名（秋吉所長、河野係長、矢野主査、石原主任、藤田主事）
議 題	障がい福祉政策の進捗状況について
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
1. 開会 2. 会長あいさつ 熱中症も増えてきているので気を付けていただき、水分補給をしっかりとしていただきたい。 3. 福祉事務所長あいさつ 熱中症アラートが出ている。職員及び利用者にも注意していただきたい。保健医療福祉総合計画の策定においてはご協力ありがとうございました。 障がい者に関する各計画をもとに市障がいのある人もない人もお互いに尊重しあい、支えあい、ともに暮らせる杵築を基本理念としまして障害福祉施策を進めていきたい。 4. 自己紹介（各委員・事務局） 5. 議事 障がい福祉政策の進捗状況について（協議会資料P.4～P.23） 知的・精神の障がい者手帳の取得者数が年々増加し、サービスの受給件数が増えていく中で市の職員は減少しており、市が単独で事業実施するには限界がある。そこで官民連携事業及びほかの行政機関との連携を強化する二本の柱を展開し、対応していきたい。 障がい福祉事業として、子ども（就労）支援部会、パラ卓球拠点整備事業、外国人介護人材の受け入れ、他の行政機関と連携強化を報告。 ① 子ども（就労）支援部会 行政、社協、相談員からなる子ども支援部会では事業所の管理者および支援員の意見を吸い上げ、県の職員をお招きした管理者向けの意見交換会や、事業所職員向けに療育支援の方法についての講演会を実施した。 就労支援部会では利用者と事業所のミスマッチの防止のため事業所がどのような支援を行っているかわかる事業所パンフレットを作成。特に初めてサービスを受給する利用者がどの事業所がよいか選びやすいようにした。	

②パラ卓球拠点整備事業

日本肢体不自由者卓球協会より、当市が卓球に力をいれていることから、拠点の整備事業に選ばれた。事業に係る経費は協会が負担し、杵築市はパラ卓球の練習を通して普及啓発を図っている。また、オープニングイベントを開催し、保護者や生徒の理解を図った。現在は月に2回練習を行っている。

③外国人介護人材の受け入れ

介護保険事業所は外国人介護人材の受け入れが進んでいるが、障がい事業所はまだ進んでいない状況である。県や県社協の受け入れ政策として、受入推進協議会研修会、アドバイザー派遣事業、マッチング支援事業などがあり、大分県にきた外国人への支援が行われている。

これらの政策を杵築市就労支援部会にて各市内事業所に紹介している。

④他の行政機関と連携強化

連携の強化のために、日出支援学校と杵築市の移行支援会議や、県と杵築市の審査支払システムの意見交換、近隣市町村事務担当者会議、パラ卓球拠点整備自治体との意見交換会を行っている。

ご意見・ご質問

釘宮会長

障がい福祉計画については見える化が進み、障がい福祉施策について年々わかりやすくなっている。自立支援協議会の立ち位置が計画の中で大きくなっていると感じる。

市民や障がい者本人、その家族がどこに行けばいいのか、どこに相談すればいいのかといったことを整理して、その情報をどうやって提供されるのか具体的に方法論としてあるのか。

事務局

窓口の一元化といったところで、社会福祉協議会の「まるっと」で障がい者に限らず、高齢者や生活困窮者についても一元化した情報提供体制をとっています。

釘宮会長

冒頭にあった人材の問題や人数は大丈夫なのか。

江藤委員

現状であればなんとか仕事が回っているが、これ以上増えると難しい。市が整理して仕事を示してもらい、その業務量に応じてという話になる。

釘宮会長

どこも人材不足である。予算編成の際に社協と市でしっかりと協議していただき、業務量とのバランスを検討してもらいたい。障がい者が増えているが、施設が受け入れきれるかという整合性を取らないと障がい者への支援が難しくなる。どの程度受け入れられるのかというのを抑えていかないと、各計画のとおりにはなかなかいかないと思う。

江藤委員

相談員の数が増えているのか。

事務局

減っていないが、増えてもいない。

江藤委員

相談員を増やす計画は市の方でないのか。

事務局

相談員の研修や資格要件で厳しい状況で、よい案がないか模索している。

釘宮会長

市町村で相談員の取り扱いになる。杵築市出身で福祉関係の大学に通っている人へのアプローチをしていくなどしないと、獲得は難しいのではないかと。

相談員が杵築にきて定着するようなメリットがないと相談員は集まらない。市として大学に行って、ぜひ杵築市に来てくれないかというアピールが必要だ。

江藤委員

市として予算的に増やすつもりはないのか。人がいないから増やさないのか。

事務局

予算措置をするにあたり、相談員を増やしていただければ市としても支援をしやすい環境になっていくと思う。

釘宮会長

予算を組むにあたり、自立支援協議会でバックアップしていく必要があるのではないかと。一緒に予算を取りに行く体制がないといい人はよその市町村に取られていく。

矢守委員

相談支援事業所をしてもらえないかという声掛けが以前あったが、ハードルが多い。相談支援員になったとしても、毎日走り回っているような状況である。一人で何人もケースを抱えているという話を聞いた。

知的の障がい者が増えているとのことだが、その方の親の会というものはあるのか。

事務局

知的というわけではないが発達といった面でわいわいという親の会はある。月に一回、健康推進館にて保健師と親の集まりがある。子どもの進学など成長に合わせた助言をしあっている。

矢守委員

児だけでなく、者もあるのか。

事務局

子どものときからこの会にはいって、成長するにつれて心配事を話し合う会になっている。

矢守委員

者についてもそういった保護者会を作ってもらえればと思う。

釘宮会長

市として検討してほしい。

川野委員

学校のほうでも保護者との情報交換をしている。学校と相談支援事業所との情報交換の場が必要だとは感じている。

事務局

行政機関としても学校と相談支援事業所との情報交換の場を作ることは課題と思っている。部会にてそういった場ができないか検討していきたい。

釘宮会長

民間と行政がそれぞれどういったことをやるのか、どういったことをしてほしいのかというのを整理しないと部会が動けないので、ある程度の具体例を出して部会にて検討してもらいたい。

矢守委員

B型の事業所をしているが、県内の事業所で工賃が下がったと聞く。工賃向上計画として県はあるが、この場で話したことは県に行くのか。

事務局

県の自立支援協議会があるので、この場で話したことを上げることはできる。

矢守委員

国からの決まったことを県よりメールがくるが、利用者が一生懸命働いているが、物価が上がる中で経費があがり、工賃が下がっている。物価高騰している部分を補助して補助してほしい。

釘宮会長

工賃があがるように仕事を取りに行くことが事業所の仕事でもある。いろんな事業所とタッグを組んで仕事を取りに行くのも一つの手だと思う。工賃アップするためにどうしているのかという情報交換を市内事業所や部会で行ってはどうか

矢守委員

仕事はすでにたくさんあるが、単価が低く、物価が高騰している中で単価はそのままである。作業所単独で単価を上げるよう要望をだしても限界がある。仕事を増やすにしても利用者に対応できない。

釘宮会長

仕事を出しているところに単価を上げるよう要望をするのであればその交渉をするのに一緒に行ってもいい。交渉の問題だと思う。

藤波委員

家族会の件だが、減少し、高齢化が進んでいる。会長を引き受ける方が亡くなりだしている。家族会に入らない方が現在とても多い。家族会での活動が少ない。家族会への参加をいかにして増やすかが大きな課題となっている。

また、医師との関係性がうまくいかない方もいる。引きこもりの方も親から離れられず苦しんでいる。

当事者との連携をいかにとっていくか。親の気持ちを考えていく必要がある。

県の福祉会の方でこころの病を考える地域学習会を行っていた。コロナの関係で中止していたが、今年は9月に行おうと思っている。民生児童委員の出席をしていただき、連携を図り、障がい者の親の気持ちや思いを共有していきたいので関係機関のご協力をお願いいたします。保護者への家族会への加入を勧めてほしい。

事務局

手帳やサービスの話を保護者にする際に家族会の紹介をすることができる。

藤波委員

保護者の気持ちを少しでも楽にできればという思いでやっている。ぜひお願いしたい。

事務局

健康長寿あんしん課にも家族の方が相談していることがあるので、その際にも家族会の紹介をしたいと思う。

釘宮会長

私の施設では保護者会を作っているが、その会に若い家族、弟や妹など現在の保護者が亡くなった後に保護者になる方に関わってもらうよう工夫をしているところである。

また、地域へのオープン化については災害避難の際に障がい者であることの名簿化が課題となっていく。障がい者がそれぞれどういった支援を必要としているのか、機会が必要ではないか。

9月に行われるこころの病を考える会にぜひ参加したい。

事務局

市報でも広報していきたい。

小野落委員

送迎サービスがなく、見学の機会がなく、最終的に B 型のサービス受給につながらなかった事例があった。

釘宮会長

自立支援協議会として障がい者をどうやってカバーしていくのか。事業所ひとつでは限界があるのでそれぞれの資源をどうやって活用していくかが課題となっていく。全体の問題としてどう取り上げていくか、どう解決していくかの段階に入っていると思う。

6. 報告事項

昨年度 3 月に you&あいサンフェスタを開催。コロナ禍明けて初めての開催であったが、一般来場者 180 名にも来ていただいた。次回は国東市で行うのでまたご協力をお願いしたい。